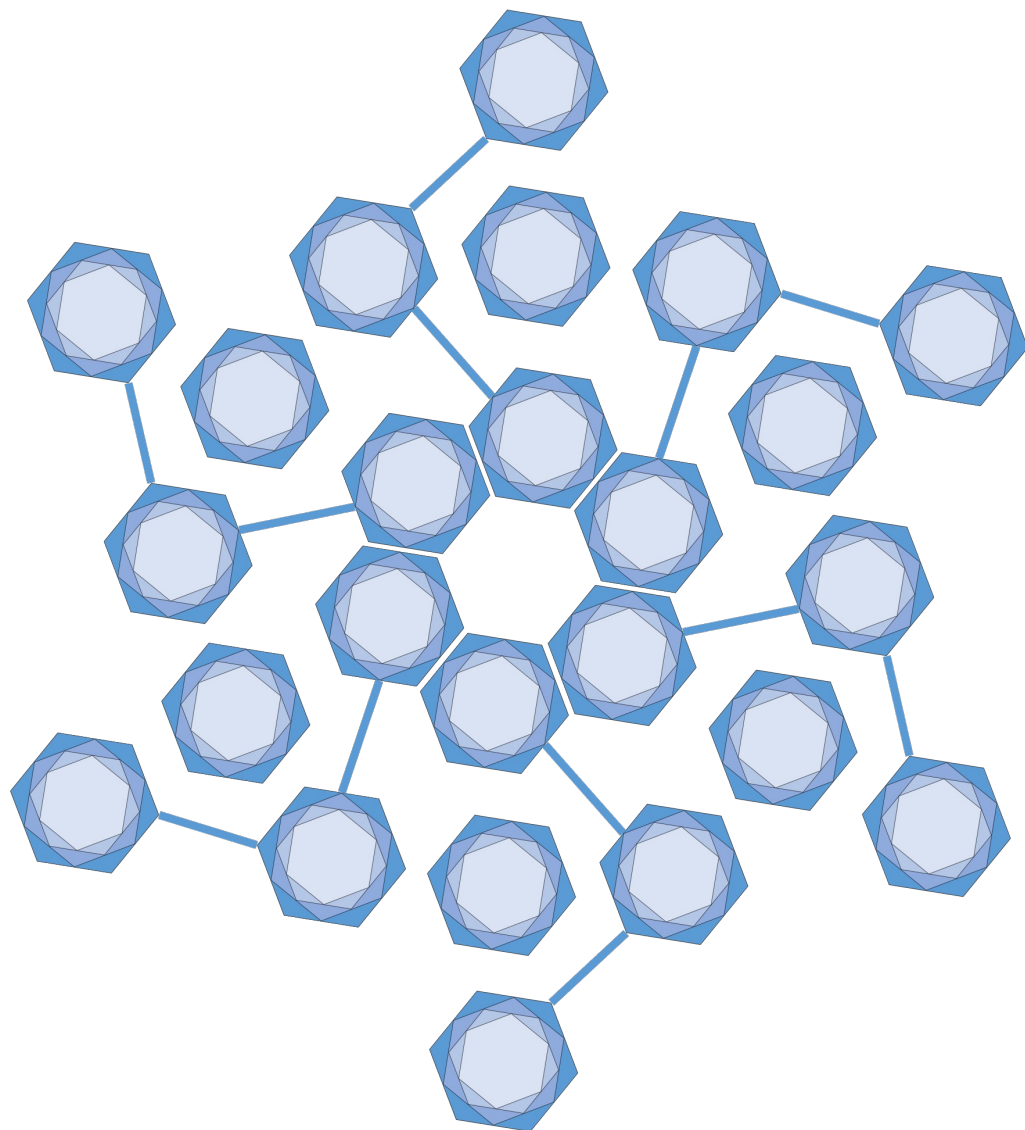


<第3号通信>



**ACT Japan ANNUAL CONFERENCE 2023**  
**Osaka**

*09-10 March, 2024*

**連携と発展**

——哲学・理論・研究・実践の関係を考える——

*February, 2024*

# ——大会概要——

## 日時・開催方法

## 参加費

### 日時：

2024年03月09日（土）－10日（日）

一般会員：4,000円

学 生：2,000円

非 会 員：8,000円

### 開催方法：

対面

◇会場＝追手門学院大学

総持寺キャンパス

（大阪府茨木市太田東芝町1-1）

※一部プログラムは録画し、  
会員限定（年次ミーティング不参加者含む）での  
無料配信を計画していますが、  
機材状況等により実現できない場合があります  
※録画の質等は保証できかねますので  
予めご了承ください

※会員区分での申込みには、

今年度の年会費の納入が必要です

※ポスター発表時にドリンク提供  
（追加料金無し）を予定しています

↳交流会で披露する自慢のお土産も  
お待ちしております！

※フリーのWi-Fi (eduroam含む) はありません  
ゲストWi-Fiあります！

# ——会場へのアクセス——

## 参加申込み

Peatixより申込みをお願いします  
<https://actjapan2023.peatix.com/>  
会員の方はMiiT+の会員番号が必要です

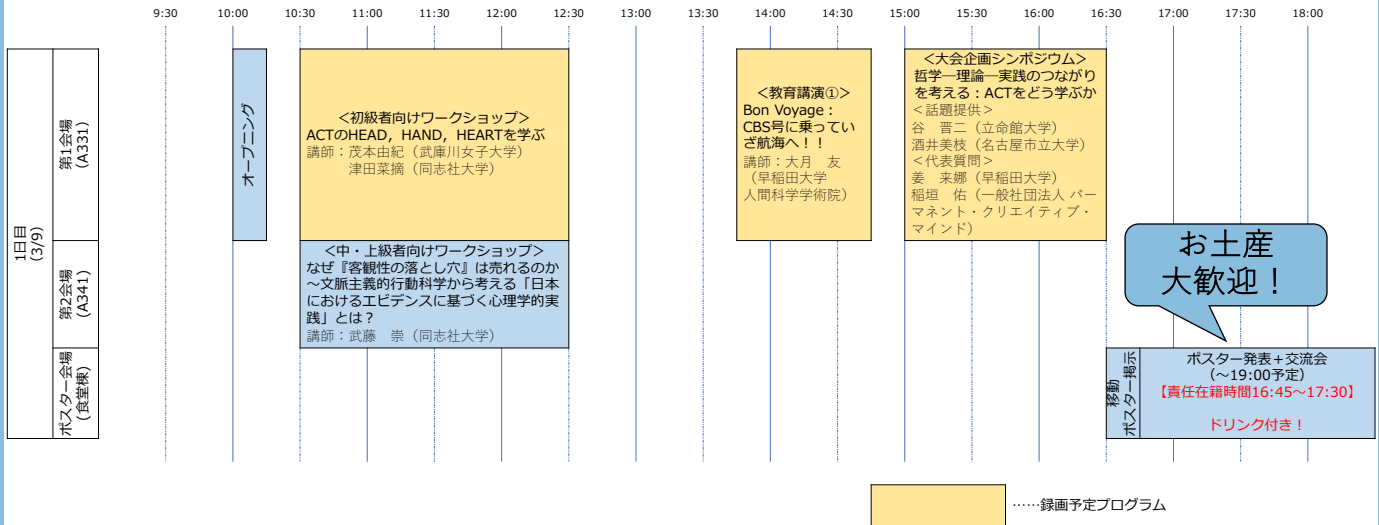


- ・JR総持寺駅から徒歩約10分  
↳普通のみ停車
- ・阪急総持寺駅から徒歩約20分  
↳普通のみ停車
- ・阪急茨木市駅（花園・東和苑行き）から近鉄バスで約16分  
↳快特以外すべて停車  
↳阪急茨木市駅→追大総持寺キャンパス前

※<https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access.html>

総持寺キャンパス3階へお越しください

# ——プログラム（プレ&1日目）——



## ◆プレカンファレンス

<事前配信>

なぜ『客観性の落とし穴』は売れるのか 講師：武藤 崇（同志社大学）

↳視聴後アンケートあり

※中・上級者向けWSを受講予定でない方もぜひ視聴ください

peatixから動画URLをお知らせします（申込みはお早めに！[<https://actjapan2023.peatix.com/>]

↳事前動画の最終案内は、**03月05日（火）の正午を予定しています（入金済みの方対象）。**

視聴を希望される方は、**前日までに申込みと入金**をお願いします。



## ◆1日目：2024年03月09日（土）

09:30—

<開場・受付開始@A322>

10:00—10:20

<オープニング（趣旨説明）@第1会場>

挨拶：ACT Japan年次ミーティング2023開催責任者 嶋 大樹（追手門学院大学）

10:30—12:30

<中・上級者向けワークショップ@第2会場>

なぜ『客観性の落とし穴』は売れるのか

～文脈主義的行動科学から考える

「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」とは？

講師：武藤 崇（同志社大学）

※事前配信動画をご視聴の上ご参加ください

<初級者向けワークショップ@第1会場>

ACTのHEAD, HAND, HEARTを学ぶ

講師：茂本由紀（武庫川女子大学）・津田菜摘（同志社大学）

12:30—13:45

休憩

13:45—14:45

<教育講演①@第1会場>

Bon Voyage：CBS号に乗っていざ航海へ！！

講師：大月 友（早稲田大学人間科学学術院）

15:00—16:30

<大会企画シンポジウム@第1会場>

哲学—理論—実践のつながりを考える：ACTをどう学ぶか

司 会：嶋 大樹（追手門学院大学）

話題提供：谷 晋二（立命館大学），酒井美枝（名古屋市立大学）

代表質問：姜 来娜（早稲田大学），

稲垣 佑（一般社団法人パーマナント・クリエイティブ・マインド）

16:45—19:00

<ポスター発表&交流会@食堂棟>

学術発表：8件，情報交換：10件

※詳細は9—11ページ



# ——ワークショップ・教育講演概要——

## 中・上級者向けワークショップ（03/09 Sat 10:30-12:30）

なぜ『客観性の落とし穴』は売れるのか

～文脈主義的行動科学から考える

「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」とは？

講師：

武藤 崇（同志社大学）

概要：

『客観性の落とし穴』（村上靖彦・著）は、昨年のベストセラーの1つである。つまり、この著作がベストセラーとなるのが、現在の「日本の文脈」である。そのような文脈において「エビデンスに基づく心理学的実践（EBPP）」は、どのような意味を持つのか（あるいは、どのようにしたら、その本来の意味を持たせることができるのか）。そこで、本ワークショップ（以下、WSとする）は、文脈的行動科学（CBS）の観点から、参加者間で、「その意味」を討論することを目的とする。

また、本WSの概要は、①『客観性の落とし穴』のレビュー動画（60分間程度：武藤作成）およびアメリカ心理学会によるEBPPの概要説明の動画（60分間程度：武藤作成）をWS開始前までに視聴する、②①を踏まえて、現在の「日本の文脈」を明確化する（討論：30分）、③CBSを再度確認する（講義の予定：30分）、④CBSに基づいた「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」の具体的行為を明確にする（討論：60分）、という構成を予定している。

※事前にプレカンファレンス動画をご視聴の上ご参加ください

↳中・上級者向けWSを受講予定でない方もぜひ視聴ください

## 初級者向けワークショップ（03/09 Sat 10:30-12:30）

ACTのHEAD, HAND, HEARTを学ぶ

講師：

茂本由紀（武庫川女子大学）・津田菜摘（同志社大学）

概要：

本ワークショップは、初心者の方がACTを体験的に学ぶことを目的としたワークショップです。本ワークショップでは、ACTのHEAD, HAND, HEARTを扱います。HEADではACTの基本哲学である機能的文脈主義について皆さんでおさらいしていきます。HANDでは、ACTを実施する上でのメタファーやエクササイズについて概観します。HEARTでは、ACTを実施する際に重要となる姿勢や考え方について体験的に学びます。

本ワークショップでは、前半はACTの基本哲学やスキルであるメタファーやエクササイズについて体験的に学んでいただき、ご自身の基本知識の確認をしていただきます。後半はACTを実際に実施する上で重要となる姿勢や考え方について体験を交えて学びを深めていただきます。

ACTの基礎知識だけでなく、実際にACTを実施するうえで大切にすることはなんなのかを皆さんと一緒に学んでいきます。



## 教育講演① (03/09 Sat 13:30-14:30)

### Bon Voyage : CBS号に乗っていざ航海へ！！

講師：

大月 友 (早稲田大学人間科学学術院)

概要：

ACT JapanのWebサイトを見ると，“Contextual Behavioral Science”という言葉が至る所にあります。CBSと略されるこの言葉は、日本語にすると「文脈的行動科学」となります。ひょっとすると、「ACTをやりたくて入ったけど、なんでCBSなの？」と疑問に思う方もいるかもしれません。実は、ACT第2版 (Hayes et al., 2012；武藤ら監訳, 2014) によると、応用心理学者も基礎心理学者も、実践家も研究者も、みんなCBSという同じ船に乗った共同体だと書かれています。どうやら我々はCBS号に乗船しているようです。いつの間に・・・。

この講演では、我々のマザーシップであるCBS号について考え、一人ひとりの役割について見直すことを通して、大会テーマである「連携と発展：哲学・理論・研究・実践の関係を考える」に取り組んでみたいと思います。みんなで良い旅にしましょう！

## 教育講演② (03/10 Sun 10:00-11:00)

### 研究的視点を持って臨床をすること

講師：

柳澤博紀 (犬山病院)

概要：

「臨床実践における研究的視点について話して欲しい」との依頼を受け、「実践論文が数本しかない私が講演なんて身分不相応だ」という否定的思考や不安な感情に飲み込まれそうになりました。ただ、ACTに出会ったおかげで鍛えられた“ウィリングネス癖”が発動して、二つ返事で引き受けてしまいました。せっかくの不安や緊張をたくさん“買える”機会ですので、講演当日もウィリングネスに臨んで、私の精神科臨床の中での着想を恥ずかしげもなく披露する場にする予定です。

改めて振り返るとケース開始時の治療関係形成や、聞き取りとケースフォーミュレーション、標的行動の選定と測定、介入の開始と効果の評価、ケースの終結、そしてその後の実践報告と、研究的視点を常に持ちながら臨床活動をしている自分に気づきました。

実践家として強く伝えたいのは「研究を重ねるために臨床をするんじゃない！ クライアントさんたちの幸福を積み重ねていくために研究的視点をもって臨床するんだ！」です。こんなメッセージが伝わる講演になればと考えています。

## 参加申込

Peatixよりweb申込みをお願いします

<https://actjapan2023.peatix.com/>

会員の方はMiiT+の会員番号が必要ですので、ご確認ください



# ——シンポジウム概要——

## 大会企画シンポジウム (03/09 Sat 15:00-16:30)

哲学—理論—実践のつながりを考える：ACTをどう学ぶか

司会：

嶋 大樹 (追手門学院大学)

話題提供：

谷 晋二 (立命館大学)

酒井美枝 (名古屋市立大学)

代表質問：

姜 来娜 (早稲田大学)

稲垣 佑 (一般社団法人 パーマネント・クリエイティブ・マインド)

概要：

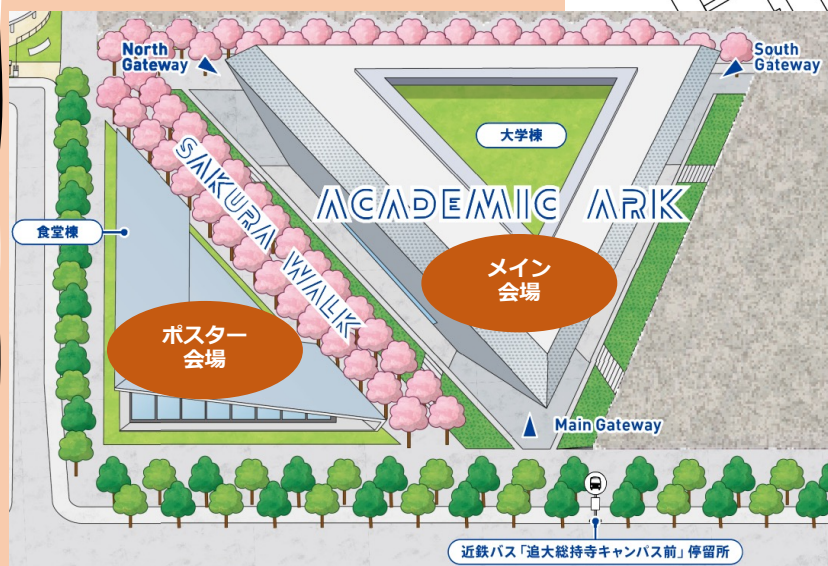
本シンポジウムは、哲学、理論、研究、実践の関係や現状について知る／考えることを通して、ACT Japanや文脈的行動科学 (CBS) の今後や自身の研究／実践について思いを巡らせる“きっかけ”を提供することを目的とする。

CBSは、基礎研究と実践の連携による多水準での発展が志向されている (Hayes et al., 2012)。そこでは、哲学、基礎研究、理論、臨床研究・臨床実践、普及といった次元の有機的連関が強調される (e.g., Hayes et al., 2012; 武藤, 2015)。そのような強調点にもかかわらず、(CBSに限らず) 幾度となく言われてきた「実践—研究間のギャップ (Goldfried, 2019)」に加えて、近年ではRFTとACTの乖離が指摘されるようになってきている (e.g., Barnes-Holmes et al., 2016; Barnes-Holmes et al., 2018)。実際にそのような状況があるとすれば、CBSの活動にとっては憂慮すべき事態であり、早急に対応する必要があるといえるだろう。したがって、今この段階で各次元間の連関に今一度立ち戻り、現状の整理と将来への展望を考える、あるいは、(新たな) 仲間とこれらの強調点を共有することには意義があるといえる。

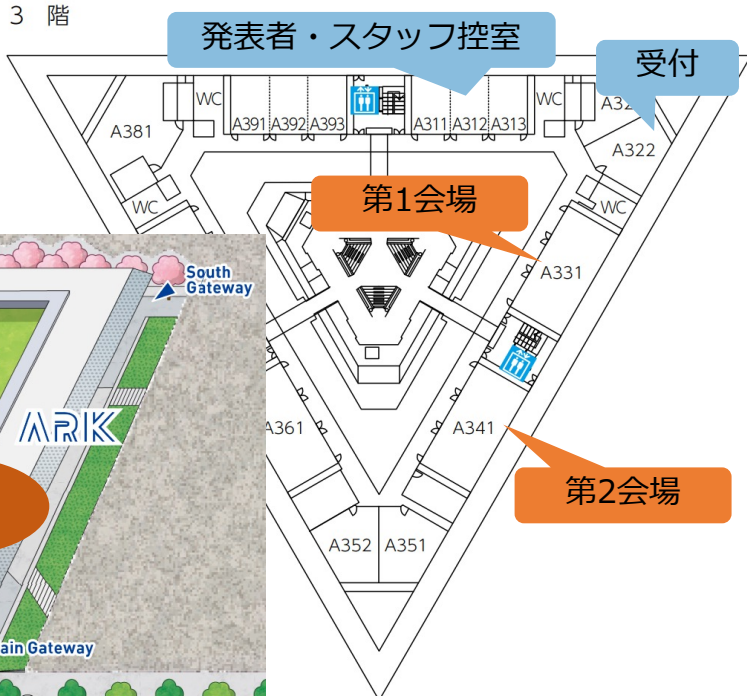
そこで本シンポジウムでは、哲学、理論、研究、実践の連関について、知識／経験豊富な研究者／実践家それぞれが考える、各次元の連関についての現状、課題、展望を提示する。また、今後のACT Japanを担う若手研究者／実践家が素朴な疑問を提起し、ACT Japanの今後の方向性や、研究／実践のあり方について考える文脈をつくることを目指す。

### ◆会場情報◆

メインゲートから入り、右手方向の階段、エレベーターで3階にお越しく下さい。受付で名札と記念品をお受け取りください。



3 階



## 公募シンポジウム① (03/10 Sun 11:15-12:45@第1会場)

### プラグマティックに哲学する：ハートフルな臨床コンピテンシーを求めて

司会：

松川昌憲 (同志社大学大学院)

話題提供：

谷 晋二 (立命館大学), 岡本利子 (嶺南こころの病院), 本田陽彦 (九州大学)

指定討論：

久留宮由貴江 (The Chicago School)

概要：

CBSコミュニティのミッション「人間の苦悩の低減と生活の向上を促進すること」の実現に向けて、CBSの科学哲学と認識論が臨床におけるコンピテンシーにどう関与するのか。これを本シンポジウムをとおしてプラグマティックに哲学したい。

CBSアプローチにおいて、その肌理を規定するのは、それが拠って立つところのパラダイム、すなわち哲学と人間観に他ならない。

CBSは、徹底的行動主義とプラグマティズムの影響を受けて発展した機能的文脈主義の哲学に基づく科学である。今この文脈のなかの行為を分析単位とし、行動の予測と影響によって言語行動の変容を促す臨床におけるコンピテンシーには、CBSの哲学的背景の理解が不可欠である。その理解の深度は臨床のそれと原理的に相関するといえるであろう。

行動の予測と影響には豊かな記述が必要であり、豊かな記述もまた精緻な予測と影響をとおして可能となる。これらは心理的苦悩に向き合う我と汝からなる場における唯一性と一回性を備えたongoingな相互作用であり、そのインター・イントラパーソナルなプロセスに自覚的で、探究的であることが必要になる。質的で個性記述的なセンスにひらかれながら、私たち自身が自他のヴァルネラビリティをコンパッションに明け渡し、ダイナミックで機能的かつ文脈的なりフレキシビリティを保持すること—ちょうどエンジニア的な機能主義のモードがハートフルでマインドフルな記述的な存在モードに包み込まれているようである。

では、このような人間観に基づくコンピテンシーはいかにして涵養されるのか。セルフ・プラクティスやリフレクションとともに、多様でひらかれた継続的なエンパワーメント、たとえば、スーパービジョンやワークショップ等をおとして研鑽し合う必要がある。

本シンポジウムでは以上のような関心を共有し、ACTジャパン全体でプラグマティックに哲学したいと思うのである。

## 公募シンポジウム② (03/10 Sun 11:15-12:45@第2会場)

### EEMMグリッドの実践とその活用可能性

企画・司会：

勿田文記 (株式会社スタートライン CBSヒューマンサポート研究所)

話題提供：

菅原大地 (筑波大学)

光定博生 (横須賀共済病院)

勿田文記 (株式会社スタートラインCBSヒューマンサポート研究所)

指定討論：

竹内康二 (明星大学)

概要：

ヒューマンサポートに関する新たな技法として、PBT (プロセス・ベースド・セラピー) が注目を集めつつある。PBTはエビデンスとクライアントの個別性の両方を尊重した心理療法の実現を目指している。2023年10月には、PBTに関する日本初の翻訳書「プロセス・ベースド・セラピーをまなぶ」が、菅原大地氏らの監訳により出版されており、本邦内でも多くの情報を入手できる環境が整い始めている。

本シンポジウムでは、既にPBTの実践に取り組んでいる方々からの話題提供をもとに、PBTの実践とその活用可能性についての議論をスタートすることを目的とする。

既にPBTの実践に取り組んでいる話題提供者として、筑波大学の菅原大地氏 (オンデマンドにて参加)、横須賀共済病院の光定博生氏、株式会社スタートラインCBSヒューマンサポート研究所の勿田文記氏から、EEMMグリッド実践によるメリット・デメリット、実践に対する制約と対策、また実践のための工夫などについて、話題提供をいただくことを予定している。菅原氏からは、教育場面や福祉場面等でのEEMMグリッドの活用におけるポイントや効果等に加え、EEMMグリッドの実践をベースとした臨床研究の可能性についてお話しいただく。光定氏からは、医療場面でのEEMMグリッドの実践の方法や効果に加え、組織内でのEEMMグリッドの活用によるメリット・デメリット、今後の活用の可能性についてお話しいただく。勿田氏からは、EEMMグリッドの組織的な運用を実現するための、障害者の職業分野におけるサポート職に対する研修の内容や、その効果と現状、今後の展望等についてお話しいただく。

また、これらの話題提供に対し、明星大学の竹内康二氏から指定討論者として、さまざまな教育的・臨床的視点から、より幅広いEEMMグリッドの活用可能性について討論の口火を切っていただき、それらの実現性や社会に与えるインパクト等について、参加者の方々と広く意見交換等を行いたいと考えている。



# ——口頭発表概要——

## 口頭発表① (03/10 Sun 13:45-14:15 ; 学術発表)

### 日本語版Parental Acceptance Questionnaire (6-PAQ) の信頼性と妥当性：小学生の子どもを持つ保護者への適用

発表者：

山田達人 (明治学院大学)

概要：

Acceptance and Commitment Therapy (以下, ACT) は, 心理的柔軟性を生み出すことを目指した認知行動療法であり, 近年においては, 育児ストレス等を抱える保護者に対する支援にも適用されつつある。しかしながら, 保護者の心理的柔軟性を測定するParental Acceptance Questionnaire (6-PAQ)の信頼性と妥当性は, 部分的にしか検討されておらず, 特に, 小学生の子どもを持つ保護者のデータが不足している。そこで本研究では, 日本語版6-PAQの信頼性と妥当性の証拠を集めるため, 小学生の子どもを持つ保護者を対象に (1) 内的一貫性, (2) 再検査信頼性, (3) 構造的妥当性, を検討するとともに, (4) 保護者の心理的柔軟性と幸福感との関連を検討する。本研究の知見は, ペアレント・トレーニング (以下, PT) における保護者自身の心理的な準備状況, 具体的には, 自身の思考や感情に振り回されず, 自身の幸福に向かって継続的にPTで学んだことに取り組んでいけるかどうかを事前にアセスメントする際に活用できると考えられる。

## 口頭発表② (03/10 Sun 14:15-14:45 ; 情報交換)

### 教育におけるCBSとプロソーシャルとプラグマティズム： デューイとミードとの対話

発表者：

瀬平劉アントン (九州大学基幹教育院)

概要：

本発表はCBSの思想的背景, ペパーの文脈主義とジェイムズのプラグマティズムを紹介してから, 二人のプラグマティスト, デューイとミードを紹介し, その思考と行為論がどのようにスキナーのオペラント条件付けと続くか, またRFTとどうつながるかを紹介する。そして, デューイの教育論を検討し, 「教育における目標」を巡って, ACTの可能な貢献を検討したい。しかし, それはまだ個人の行動を中心とするモデルだが, 教育の場合は間柄と社会のモデルが不可欠。そこで, プロソーシャルのアプローチを紹介し, そのCBSとの連続性を明確化しながら, デューイの民主主義論とミードの社会的行動主義の類似性を描く。しかし, その対話において, 個人の行動主義ではなく, 社会行動主義, 相互作用的なアプローチも可能になり, その心理学に対するチャレンジを一緒に検討したい。

# ——ポスター発表——

## 学術発表

### A-1

#### 教師のバーンアウト経験に関する質的検討の試み—心理的柔軟性の観点を含めて—

黄 優花（早稲田大学大学院）・大月 友

目的：教師のバーンアウトとは理想を求めて悩みながら努力したが、不満足感や疲労感だけに至る状態である（宗像・椎谷，1986）。しかし、教師バーンアウトの質的研究は少ない。よって、本研究では教師バーンアウトの経験について質的なパイロット研究を行うことを目的とする。

方法：中学校に勤める2名の教師を対象に、1時間のオンラインインタビューを実施した。バーンアウトの3要素と大切にしていることを尋ねた。

結果と考察：Modified-Grounded Theory Approachを行い、情緒的消耗感で2概念、個人的達成感で1概念が生成された。教師は求められる役割が変化したにも関わらず、十分なサポートを周囲から得られないと情緒的に消耗する可能性がある。子どもたちの卒業場面には教師としての達成感を感じるだろう。教師が大切にしていることをグループ分けした結果、子どもたちに関わる面と、自身の人生で大切にしている面があった。方法論的限界があるため、更なる検討が必要だろう。

### A-2

#### 多職種による支援にEEMMグリッドを活用した強迫性障害、うつ病の症例

光定 博生（国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院）

精神科の臨床実践では一人一人のクライアントに心理学、生物生理学、社会文化的側面からアプローチする必要がある。しかし一人の臨床家がすべてに精通することは困難であり、多職種による連携が望まれる。PBTのEEMMグリッドは平面上に心理学、生物生理学、社会文化的要素と文脈を表わし、それらの関係をネットワーク図でわかりやすく表現できるため、多職種による支援に有用と考えられる。症例は自殺企図を機に入院となった強迫性障害、うつ病の50代女性。身体的に安静が必要という事もあり、一日中頭の中での強迫行為を行っていた。また外傷性の嗅覚障害があり、「嗅覚が戻らない」と言う考えが出現するのを避けるため、食事を避けていた。EEMMグリッドを用いて情報共有を行い、多職種で介入を行ったところ、食事摂取率が平均0.33から0.65に増加した。本症例ではEEMMグリッドは多職種による支援方法を検討するうえで有用だった。

### A-3

#### 日本語版Oldenburg Burnout Inventory – Medical student (OLBI-MS)の信頼性・妥当性と心理的柔軟性・精神疾患へのスティグマとの関連

渡辺孝文（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学） ・大森一郎・近藤真前・白石 直・中口智博・酒井美枝・明智龍男

医学生向けバーンアウト尺度である、Oldenburg Burnout Inventory – Medical student (OLBI-MS)の日本語版の信頼性と妥当性を検討することを研究目的とした。臨床実習中の医学生206名を対象にオンライン質問紙法により横断調査を実施し195名よりデータ収集後、構造的妥当性、内的一貫性、再テスト信頼性を検討した。また他のアウトカム指標であるMaslach Burnout Inventory- General Surveyや心理的柔軟性、精神疾患へのスティグマ、抑うつ測定尺度との相関係数を算出し、収束的妥当性を検討した。分析の結果、内的一貫性、再テスト信頼性、収束的妥当性を確認した。構造的妥当性は、帰属が低い4項目(disengagement2項目, exhaustion3項目)を除いた11項目のモデルにおいて適合度が高い傾向にあった。邦訳を用いる際は因子構成に留意し、さらに検証を重ねる必要がある。

## A-4

### 体験の回避および睡眠に関する非機能的な信念が不眠症状に与える影響

板東瑞季（関西学院大学大学院）・朝倉智大・佐藤 寛

近年、不眠症に対するACTの有効性が明らかになっている。既存の不眠症への介入方法である睡眠スケジュール法にACTの要素を組み込んだACT-BBI-Iなどが開発され、効果検証が行われている。しかし、ACTがどのようなメカニズムで不眠の改善に寄与しているかは不明である。本研究では不眠の維持要因である非機能的信念に着目し、体験の回避と不眠症状を含め探索的に検討し、ACTの不眠に対する作用機序に関する示唆を得ることを目的として大学生に横断調査を行った。169名（女性102名、男性55名、その他12名）による回答の結果、非機能的信念を媒介変数とした体験の回避の影響は完全媒介を示し、体験の回避が不眠症状に直接与える影響は認められなかった。よって、本研究では不眠症改善における体験の回避の優位性は示されなかった。今後は他の維持要因との関連を検討することや、睡眠に特化した心理的柔軟性の尺度開発が求められる。

## A-5

### 問題のあるスマートフォンの使用が心理的well-beingに与える影響 -回避行動の調整効果について-

首藤祐介（立命館大学 総合心理学部）・秦 寛志・山本竜也

問題となるスマートフォンの使用がPsychological Well-Being(PWB)に与える影響について、回避行動の調整効果を含めた検討をすることを目的とした。オンラインモニターを対象とした質問紙調査の結果978名が分析対象であった。PWBを従属変数とした階層的重回帰分析の結果、スマートフォン依存( $\beta = .00$ , ns)の影響は有意ではなかったが、回避傾向( $\beta = -.37$ ,  $p < .01$ )および両者の交互作用( $\beta = .11$ ,  $p < .01$ )が有意であった。単純傾斜検定の結果、回避が低い場合にはスマートフォン依存傾向がPWBに負の影響を及ぼす( $\beta = -.16$ ,  $p < .05$ )が、回避が高い場合はスマートフォン依存傾向が正の影響を及ぼしていた( $\beta = .16$ ,  $p < .05$ )。本研究の結果から、回避の効果のみならず、回避傾向が高い場合問題となるスマートフォンの使用がむしろPWBを高める可能性が示唆された。

## A-6

### 視点取得における日常的な体験と関係フレーム理論の枠組みとの差異： テキストマイニングを用いた分析

大島康寛（立命館大学大学院人間科学研究科）

関係フレーム理論（Relational Frame Theory：RFT）で定式化された視点取得のトレーニングは、3つ直立的なフレームの入れ替える認知的操作を志向している。しかし実生活に応用されうる視点取得は、しばしば感情的側面も包摂して議論されることが多く、このトレーニングの応用可能性については議論の余地がある。そこで本研究では、RFTにおける視点取得のトレーニングを受けた者に、日常生活で他者の立場に立つ際に注意しているポイントと、トレーニング後の視点取得に対する認識の変化を記述させ、テキストマイニングを用いてその内容を分析した。分析では記述内容における名詞と動詞、形容詞の出現頻度をカウントし、ワードクラウドとして描写した。また記述内容全体を、共起ネットワークで描写した。その結果、日常生活でもトレーニング時でも、自己よりもや他者に意識が向くことが示されたが、特に前者では「状況」が連なり、後者では「視点」が連なることも示された。

## A-7

### 実臨床場面におけるACT関連尺度の変化

高橋まどか（久喜すずのき病院）・嶋 大樹

【目的】実臨床場面における、ACT関連尺度(AAQ-II, CAQ, CFQ)の変化と介入の関連を探索的に検討する。

【方法】第一著者によるカウンセリングのケースより、ACT関連尺度を継続測定している12症例を選定した。個人内変化を確認するため、Rのstrucchange関数を用いて各尺度の変化点を検出した。平均値の変化点前後における介入内容の共通点を探索的に抽出した。

【結果】11症例で1つ以上の変化点が検出され、AAQ-IIが改善した5症例とCFQが改善した4症例に介入の共通点が認められた。前者は脱フュージョン後にアクセプタンスを導入しており、後者は思考に気づく練習をしていた。

【考察】尺度変化と介入の関連を記述することで、介入の妥当性の確認や介入法選定指針の提供が可能となる。継続した尺度測定は、振り返りや方針検討に有用である可能性がある。今後も実臨床の継続測定データの蓄積が望まれる。

## A-8

### 保育所保育士を対象としたACTによる支援プログラム実践の試み

稲垣 佑（一般社団法人パーマネント・クリエイティブ・マインド）・香川葉月・安東大起

本研究では、保育所に勤務する保育士13名を対象に、不適切な保育防止研修の一貫として、ACTによるメンタルヘルス支援プログラムを実施し、その有効性を検討した。プログラムは、2時間のワークショップ形式で実施され、保育中に遭遇する困難な場面を題材に、創造的絶望、アクセプタンスとマインドフルネス、価値の明確化に関するエクササイズやワークが扱われた。回答が得られた6名を対象に分析を行った結果、保育士ストレス（NTSS）の中でも、保護者対応及び給料待遇においてのみ改善がみられた。一方で、体験の回避（AAQ-II）及びNTSSのその他の下位尺度については、維持もしくは悪化の傾向がみられた。以上の結果から、本プログラムの有効性は認められなかった。しかし、各アウトカムの結果は、全体的に悪化の傾向がみられ、日々の業務内容の変化といった時間的な影響を受けている可能性もある。今後は、統制群を設けた実験デザインによる検討が必要である。

## 情報交換

### I-1：月経前症候群の社会的症状に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピーの効果

船津萌実（久喜すずのき病院）・武藤 崇

### I-2：ACTに基づく若手従業員向けオンライングループプログラムの実践報告

戸澤杏奈（株式会社アドバンテッジ リスク マネジメント）・土屋政雄

### I-3：アクセプタンス&コミットメント・セラピーを用いたセルフヘルプの

系統的レビュー/メタ分析への誘い

伊藤雅隆（福島大学）

### I-4：Generalized Pliance and Tracking 2-way Scale: GPT2sの作成および信頼性と妥当性の検討

井上和哉（立命館大学）・岡島 義（東京家政大学）

### I-5：職業リハビリテーションの現場における支援スーパーバイザーの導入と効果

菊池ゆう子（株式会社スタートライン CBSヒューマンサポート研究所）・豊崎美樹・芻田文記

### I-6：刺激等価性理論及び関係フレーム理論に基づいた訓練ツールを搭載した障害者雇用支援システム

「Enable360」について

岩村 賢（株式会社スタートライン CBSヒューマンサポート研究所）・小倉 玄・芻田文記・香川紘子

### I-7：職業場面においてコミュニケーションや業務遂行に課題があった成人に対する

関係フレームスキル訓練の実施とその効果

香川紘子（株式会社スタートライン）・下山佳奈・芻田文記

### I-8：企業の従業員に向けたアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）集団プログラムの実践報告

小倉 玄（株式会社スタートライン）

### I-9：ACTをベースとしたビジョン明確化手法の研究①

～事業創出やその人らしい働き方の実現に寄与する個人ビジョン明確化手法およびシステム化の提案～

藤田光洋（NECソリューションイノベータ株式会社）・富木 毅・家志門太・並木将央・菅原大地・野田尚志

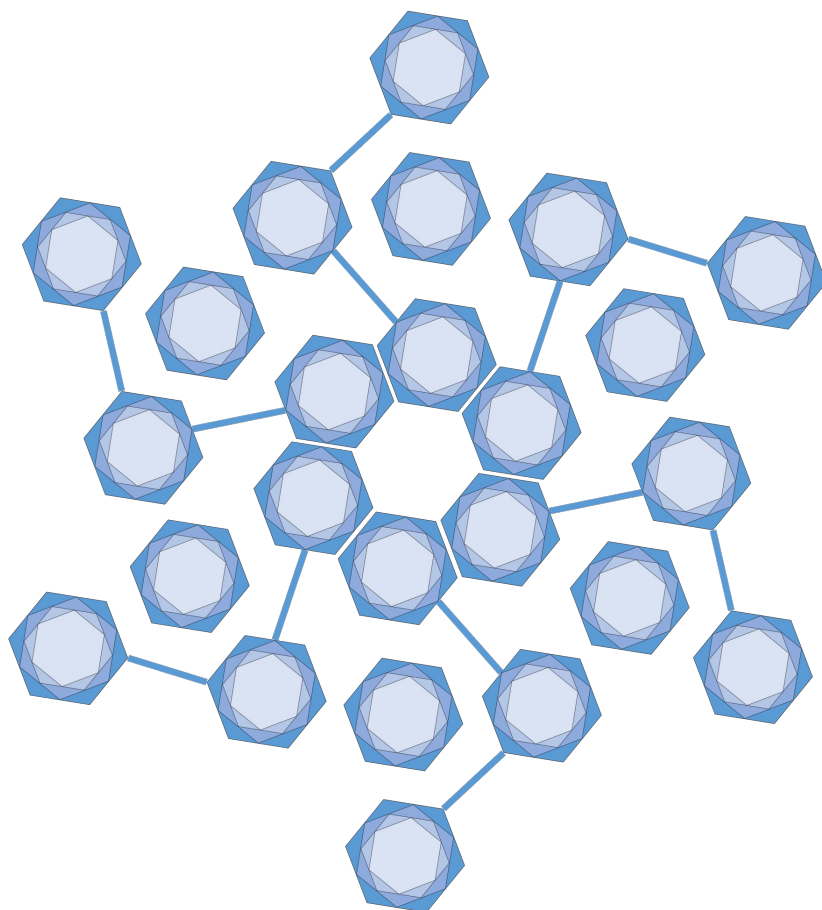
### I-10：ACTをベースとしたビジョン明確化手法の研究②

～組織ビジョンと個人ビジョンの整合による、組織の方向性に合った事業創出や

その人らしい働き方の実現～

富木 毅（NECソリューションイノベータ株式会社）・藤田光洋・家志門太・並木将央・野田尚志





# ACT Japan ANNUAL CONFERENCE 2023

Osaka

09-10 March, 2024

## STAFF

### ◆準備委員◆

茂本由紀 (武庫川女子大学)

井上和哉 (立命館大学)

伊藤雅隆 (福島大学)

津田菜摘 (同志社大学)

### ◆開催責任者◆

嶋 大樹 (追手門学院大学)

お問い合わせ：ACT Japan年次ミーティング2023運営事務局  
act.japan.annual@gmail.com